

看護教育における「社会人基礎力」の能力要素「チームワーク」育成に関する検討

—看護統合実習の学生自己評価から—

Study on development of “Teamwork” ability element of “Fundamental competencies for working persons” in nursing education

—From student self-evaluation of nursing integration training—

石村 珠美*¹ 池田 緑*² 江原 美智子*²

Tamami Ishimura, Midori Ikeda, Michiko Ehara

キーワード：看護統合実習、社会人基礎力、チームワーク

Key words : integrated nursing practicum, fundamental competencies for working person, teamwork

要旨

目的：看護統合実習により学生が認識した「チームワーク」について、自己評価項目および学生の自由記載から明らかにすることを目的とした。

方法：本実習を履修した3年次生35名を対象に、自己記述式調査を行った。データ分析方法は記述統計、実習前後の平均値をウィルコクソン符号順位和検定にて比較分析した。個人レポートは「チームワーク」を構成する6項目の視点から分析し、分析した記述を能力要素毎に「学び」と「自己課題」に分類した。

結果：実習前後で調査した「チームワーク」を構成する6つの能力要素別自己評価の平均値の検定では【傾聴力】【規律性】【ストレスコントロール力】の各項目において有意に自己評価の平均値が向上していた。個人レポートでは各能力要素で具体的な学びや自己課題が記述されていた。

結論：看護統合実習で「社会人基礎力」の行動指標を用いることは、学生自身が自己課題に気づき、自らの課題を意識し、行動を起こすきっかけとなる。学生にとって看護統合実習は「社会人基礎力（チームワーク）」の向上につながることを示唆された。

*1 札幌保健医療大学 Sapporo University of Health Sciences

*2 北海道医薬専門学校 Hokkaido Iyaku Nursing School

1. はじめに

看護職は、患者の最も身近にいる存在として、チーム医療の中で中心的な役割を担っており、チームとして看護を提供するために、専門的な知識や技術だけでなく、コミュニケーション力や発信力、状況に合わせて柔軟に対応する能力などが個々に求められている¹⁾。しかし、現代の看護学生の特徴として、同世代の若者同様、生活体験の乏しさや、基本的な生活能力や常識、学力が変化してきていると同時に、コミュニケーション能力が不足している傾向があることが指摘されている²⁾。看護基礎教育ではこれらの看護学生の特徴をふまえ、チーム医療において専門性を発揮していくうえでのベースとなる基本的な姿勢・態度、能力や資質について育成に努めてきたが、臨床のニーズに十分応えきれていない状況にある³⁾。そのため看護基礎教育の中で必要とされる基本的な姿勢・態度、能力や資質については、臨床で求められるそれらの能力との乖離が生じないように、育成・評価することが必要である。新人看護研修ガイドライン⁴⁾においても、看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標が設定され、チーム医療の役割について、また、適切なコミュニケーションをとることについての項目が達成目標として明記されている。このように、チーム医療の中心的役割が期待される看護師にとって、チームワークの基本となるコミュニケーションをはじめとする数々の基礎的な力の育成は、大きな課題であり、看護基礎教育から基礎的な力の育成をすることがますます重要であるといえる。

X看護師養成校は、これまでの看護統合実習で、学生の「チームワーク」が発揮されず、実習目的・目標達成が不十分であったことを課題とし、その育成方法を検討した。そこで、看護基礎教育において必要とされている自己の確立、自己洞察、他者との関係性構築能力とも共通するものがある、「社会人基礎力」⁵⁾を活用することとした。「社会人基礎力」とは、

経済産業省が推奨し、「職場や社会の中で多様な人々とともに仕事をしていくために必要な能力」と定義され、3つの能力と12の能力要素からなっている。「社会人基礎力」を指標とすることについて、高橋は⁶⁾、「自身の能力を可視化することで、仕事をするうえで必要な能力に自ら気づき、意識し、また、自分の状況を把握することにより、やるべきことが見えてくる。さらに、自分で考え、責任を持って決断し、自ら行動することにより、主体的な行動力・実行力を身に付けさせる機会になる」、と述べている。X看護師養成校においても、「社会人基礎力」の能力である「チームワーク」を学生が自己評価することで、自己課題に気づき、意識し、自らの課題を見出し、行動を起こすきっかけとなり、その結果「チームワーク」が発揮されることが期待され、看護統合実習の目的・目標達成が可能になると考えた。また、「社会人基礎力」のどの能力要素も看護師には非常に重要で、バランスよく発揮することでよい看護の実践に活かされることから、看護基礎教育において育成必要な力であると考えた。

先行研究において、看護統合実習全体を考察し、実習の効果や課題を検討した研究⁷⁾や、看護統合実習による学生チームナースングの課題を検討した研究⁸⁾は報告されているが、「社会人基礎力」を用いた研究は見当たらない。また、「社会人基礎力」項目を用いた研究では、看護学生の実態を調査した研究⁹⁾や、看護学実習を通しての学生の変化に関する研究¹⁰⁾は報告されているが、看護統合実習で「社会人基礎力」項目を用いて、チームで働く上で必要な能力に焦点をあてた研究は見当たらない。そこで本研究では、看護統合実習により学生が認識した「チームワーク」について、自己評価項目および学生の自由記載から明らかにすることを目的とした。それにより、看護基礎教育において、学生への「チームワーク」育成について検討したいと考えた。

II. 用語の定義

チーム：本研究では、看護統合実習において3～4名の学生で構成され、受け持ち患者への看護実践を行う単位を指す。

社会人基礎力：職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力であり、基礎学力や専門知識とともに、それらをうまく活用していくための力を指す¹⁰⁾。具体的には、アクション(前に踏み出す力)、シンキング(考え抜く力)、チームワーク(チームで働く力)の3つの能力と12の能力要素からなっている。

チームワーク：社会人基礎力の能力の1つで、「多様な人々と共に、目標に向けて協力する力」¹⁰⁾と定義されている。6つの能力要素、【発信力】【傾聴力】【柔軟性】【状況把握力】【規律性】【ストレスコントロール力】で構成されている力である。本研究では、「チームで看護活動を実践するにあたり発揮すべき個々の能力」と定義した。

III. 研究目的

看護統合実習により学生が認識した「チームワーク」について、自己評価項目および学生の自由記載から明らかにすることを目的とした。

IV. X看護師養成校における看護統合実習の概要

1. 看護統合実習の概要

X校において看護統合実習は、全ての看護学実習を終えた3年次生の最終段階での実習である。実習期間は11月下旬から12月中旬にかけて12日間臨地での実習を行った。実習までの1週間前をオリエンテーション期間とし、実習目的や目標の説明、実習方法の説明、また、実習目的・目標を達成するために、課題提示によるグループ演習等の実習準備を行った。本実習は、3名または4名の学生チームで構成しリーダー、メンバーの役割を日替わりで実施

した。リーダーは主にメンバーや患者の把握、指導者や教員との調整を担い、メンバーは協力して受け持ち患者の看護を実践した。各チームは、実習期間中4名の同じ患者を受け持ち、患者の看護についてチーム間で情報や看護計画を共有し看護援助を実践した。この学生のチームは実習指導者と共に病棟の看護チームの一員として位置づけた。

2. 看護統合実習の目的・目標

実習目的を「複数患者を対象としたチームでの看護活動を通して、安全な看護を提供するための基礎的な看護実践能力を養う」とし、チームで複数患者を受け持ち、看護を実践することが主な実習目標であった(表1)。

V. 研究方法

1. 研究対象者

3年課程のX看護師養成校に在学している3年次生35名を対象とした。

2. 研究期間

研究期間は、平成25年11月～平成26年3月である。

3. データ収集方法

1)「社会人基礎力」項目に沿った自己記述式質問紙調査

学生が看護学実習を行うためには、患者へのプライバシーの配慮などの倫理的視点は欠かせないものと考え、調査用紙は、経済産業省の社会人基礎力3つの能力と12の能力要素に、倫理性を加えた岐阜大学医学部看護学科で使用している4つの能力と13の要素での評価用紙³⁾を参考に作成した。そのうち、チームで働く力(チームワーク)の項目のみを抜粋して本研究対象の自己評価表とした(表2)。調査用紙作成にあたり、岐阜大学医学部看護学科が使用している「社会人基礎力(実習時)と行動指標(具体的な行動例)」の内容について、本

表 1. 看護統合実習目的・目標・実習内容(一部抜粋)

実習目的: 複数患者を対象としたチームでの看護活動を通して、安全な看護を提供するための基礎的な看護実践能力を養う。		
実習目標	行動目標	実習内容
1. 複数患者の優先度を考慮し、援助を実践できる	1) 複数患者の情報を整理し、対象の理解ができる 2) 複数の受け持ち患者を、日々の状況に応じて把握する 3) 病棟の看護計画を理解し、看護の実際と関連づけて考えることができる 4) 複数患者の優先度を考慮した行動計画の立案と修正ができる 5) 個別性に応じた看護援助を考えることができる 6) 対象の状況に合わせ安全に看護援助を実施できる	①カルテ 看護記録 ワークシート 体温表 検査予定表 週間予定表 援助の見学と実施から得た情報などから必要な情報を実習記録用紙一式に整理する ②病棟の看護計画の解釈・根拠性のアセスメントを実習記録に記述する ③患者の個性をとらえ、援助方法・留意点を技術レポート、行動計画表に記述する ④看護計画・行動計画に沿って援助を行う ⑤各自が個々の患者の優先度と複数患者を受け持つ場合の優先度を考え、行動計画表に記述する ⑥各自考えた行動計画表と、申し送りによって得た情報を考慮し、チームで検討しその日の行動計画を統一して指導者に発表する ⑦患者の状況(観察、行った援助と患者の反応)をタイムリーに内容の優先度を考慮してリーダーに報告する ⑧リーダーは受け持ち患者全員の状況をチームで共有できるよう、適宜場を設ける ⑨メンバーは各自の受け持ち患者以外の患者の状況も把握するように行動する ⑩患者の変化や業務の状況に応じて、行動計画の修正を考える⇒チームリーダーに相談し、決定する(その後リーダーの行動は実習目標 2 参照) ⑪振り返りをチーム全員で行い、それを踏まえて翌日の行動計画をチームで検討し、指導者に助言を受ける ⑫チームで話し合い看護計画の根拠について検討する
2. 看護チームにおけるリーダー・メンバーの役割を理解し、連携、協同することができる	1) タイミング・優先度を考慮した報告、連絡、相談ができる 2) 報告を受け状況に応じた調整の必要性がわかる 3) 調整の話し合いで、他者の意見を聞き、問題解決のために意見交換ができる 4) 看護チームメンバー間で声をかけ、調整・協力ができる 5) 適切な時間管理がわかり、その中で看護実践ができる	①メンバーの役割の理解 ②リーダーに適切に報告・連絡・相談を行う ③リーダーの役割の理解 ④学生チームのリーダーはメンバーから報告を受け、受け持ち患者の状態を把握する ⑤状況に応じた計画の変更(複数患者の援助の優先度・効率性・メンバーの協力人数)をチームで調整修正する ⑥学生リーダーは行動計画変更など適時指導者へ報告を行い、助言や承認を受けて、メンバーに伝達を行う ⑦内容(優先度・要点)とタイミング(適時性・相手への配慮)を考えて報告を行う ⑧チームメンバーが互いに積極的に声をかけ、調整・協力する ⑨複数患者を受け持つ病棟のチームメンバーの活動の実際について説明を受ける ⑩申し送りの見学 ⑪実習の最終週で受け持ち患者の中から各自一人担当し、次の勤務帯看護師に申し送りを行う ⑫行動計画立案や修正・援助の実施は時間管理の側面を意識して行い、実施後その視点から振り返る

実習の目的・目標や実習内容との相違の可否を、研究者を含む実習を担当する教員複数人で全ての評価項目について確認した。その結果、チームで働く力(チームワーク)の項目については、能力要素として提示されている【発信力】5項目、【傾聴力】5項目、【柔軟性】4項目、【状況把握力】5項目、【規律性】8項目、【ストレスコントロール力】5項目、各項目全てにおいてX校

の実習目的や目標、実習内容との乖離はなく妥当との合意が得られ、そのまま評価項目とした。各項目の行動指標については、それぞれ「4:あてはまる」「3:おおよそあてはまる」「2:あまりあてはまらない」「1:あてはまらない」とし、学生は実習前後にあてはまるものを選んで自己評価した。各行動指標は点数化し、点数が高いほど行動ができると評価した。

学生には、看護統合実習開始1週間前に実施した実習オリエンテーションの際に、実習の目的や目標、実習方法等説明し、実習に必要な能力として「社会人基礎力」の「チームワーク」の能力要素や各行動指標の説明を行った。

その後、社会人基礎力項目に沿った調査用紙を用いて、実習前の自己の現状について自己評価を行った。また、実習後の学内日に同じ内容の調査用紙で、実習を通して経験したことをふまえ、再度自己評価を行った。

表2. 自己評価用紙(チームワーク項目のみ)

能力	能力要素	行動指標(具体的な行動例)	自己評価(点)			
チームで働く力(チームワーク)	発信力	指導者や教員に自分の考えやその日の行う予定の計画を伝えることができる	4	3	2	1
		カンファレンスで発言することができる	4	3	2	1
		事例や客観的なデータなどを用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる	4	3	2	1
		聞き手がどのような情報を求めているのかを理解して伝えることができる	4	3	2	1
		話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている	4	3	2	1
	傾聴力	指導者や教員からの意見や助言(アドバイス)を最後までしっかりと聞くことができる	4	3	2	1
		カンファレンスでグループメンバーの意見や助言(アドバイス)を最後までしっかりと聞くことができる	4	3	2	1
		内容の確認や質問などを行いながら、相手の意見を正確に理解することができる	4	3	2	1
		あいづちや共感などにより、相手に話しかけやすい状況をつくることができる	4	3	2	1
		相手の話を率直に聞くことができる	4	3	2	1
	柔軟性	相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる	4	3	2	1
		指導者や教員からの意見や助言(アドバイス)を受け止め、納得したうえで自分の考えた内容を変更していくことができる	4	3	2	1
		グループメンバーの意見や助言(アドバイス)を受け止め、納得したうえで自分の考えた内容を変更していくことができる	4	3	2	1
		患者の状態や病棟の状態によって、指導者や行う介入のタイミングを納得して変更することができる	4	3	2	1
	状況把握力	他者の発言をさげざって発言することがない(傾聴とも重なる)	4	3	2	1
		自分でできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる	4	3	2	1
		周囲の人の状況(人間関係、忙しさなど)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる	4	3	2	1
		指導者の動きを察知しながら指導を受けて実習を行っていくことができる	4	3	2	1
		病棟内やベッド再度、カンファレンス場面で、自分の置かれた状況や期待される役割(発表者、助言者、ケア直接的援助者、ケアの介入者、どこまで口を出してよいか)を理解して行動に結びつけることができる	4	3	2	1
	規律性	病棟スタッフにあいさつができる(朝、夕、昼食の入りと戻り時間)	4	3	2	1
		患者にあいさつができる	4	3	2	1
		実習に遅刻しない	4	3	2	1
		患者とケアの予定を相談し、予定に従って行動できる	4	3	2	1
		実習学生としてのマナー(身だしなみ、言葉遣い)を守ることができる	4	3	2	1
		相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している	4	3	2	1
		相手に迷惑をかけたとき、適切な行動をとることができる	4	3	2	1
		規律や礼儀が特に求める場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる	4	3	2	1
	ストレスコントロール力	ストレス状態に置かれたときに適切にストレスを発散できる(実習場面だけでなく帰宅後も含める)	4	3	2	1
強いストレス状況をつくらぬような人間関係の維持や、実習記録をためてストレス状況をつくらぬようにすることができる		4	3	2	1	
ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる		4	3	2	1	
他人に相談したり、別のことに取り組んだりするなどにより、ストレスを一時的に緩和できる		4	3	2	1	
ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている		4	3	2	1	

4:あてはまる 3:おおよそあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

2)「社会人基礎力」に基づいた個人レポート
看護統合実習後に、「社会人基礎力」の各項目について自己評価した内容と、これまでの自己を振り返り、「社会人基礎力をふまえた看護統合実習の学び」をテーマにレポート記載を求めた。形式は自由形式とした。

本実習前後に実施した調査用紙や、実習後に記載した自己課題レポートについては、研究に同意が得られる学生のみ回収できるよう、回収ボックスを教室に設置し後日回収した。

4. データ分析方法

1)「社会人基礎力」項目に沿った自己記述式質問紙調査

記述統計。本実習前と実習後のそれぞれについて、チームで働く力(チームワーク)の6つの能力要素の行動指標毎に、平均値を算出した。6つの能力要素毎の実習前後の比較はウィルコクソン符号順位和検定で行い、 $p < 0.05$ をもって有意差ありとした。統計処理は統計解析ソフトEXCEL統計2010を使用した。

2)「社会人基礎力」に基づいた個人レポート
本実習後に課題に沿って記載された学生のレポートを繰り返し読み、学生の素データを「チームワーク」を構成する6項目の視点から分析した。分析した素データの文脈を6項目の視点に沿って、意味内容を損なわないよう拾い上げた。拾い上げた素データの文脈は、項目毎に「学び」と「自己課題」に分類した。研究者を含め、看護統合実習を担当した看護教員複数人で合意を得るまで繰り返し検討し、信用性を確認した。

VI. 倫理的配慮

対象者に対し、看護統合実習の前に実施した実習オリエンテーション時に、研究の趣旨、本研究への参加は自由意志であり研究協力の有無が実習成績に影響を与えることはない旨を書面と口頭で説明した。また、自己評価表は実習時の実習評価表とは異なり、回答は無記名とし成績に影響を与

えることはない旨を書面と口頭で繰り返し説明した。さらに、学生に不利益が生じないよう実習評価終了後に、研究協力の得られた学生の自己記述式質問紙と「社会人基礎力」項目に沿った個人レポートの「チームワーク」に関する記述部分を分析対象とし、分析時には研究者が、学籍番号、氏名を除きID番号を付し文章のみを分析することを説明し書面で研究協力の意思確認を行った。本研究は、X看護師養成校の倫理審査承認を得て実施した。

VII. 結果

学生の看護統合実習前後に実施した自己評価調査用紙や、実習後に記載した自己課題レポートは共に対象者全員から提出され、そのうち研究協力の得られた学生は35名全員であった。

1. 「社会人基礎力項目(チームワーク)」の自己評価

実習前後で調査した「社会人基礎力」の「チームワーク」に関する【発信力】【傾聴力】【柔軟性】【状況把握力】【規律性】【ストレスコントロール力】の6つの能力要素の行動指標毎に平均値を算出した。実習前後の自己評価平均値の差から、最も平均値が向上した能力要素は【ストレスコントロール力】であった。最も平均値が向上した行動指標は、【ストレスコントロール力】の「ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている」であった。次に「強いストレス状況をつくらぬような人間関係の維持や、実習記録をためてストレス状況をつくらぬようにすることができる」、「ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる」と、全て【ストレスコントロール力】の項目であった。一方で、実習後に平均値が低下した行動指標は、【状況把握力】の「他者の発言をさえぎって発言することがない」、【規律性】の「実習に遅刻しない」、【発信力】の「カンファレンスで発言することができる」の3項目であった。

さらに、実習前後の「社会人基礎力(チームワーク)」の能力要素別自己評価の平均値についてウイ

ルコクソン符号順位和検定を行ったところ、【傾聴力】(p=0.0431)、【規律性】(p=0.0209)、【ストレスコントロール力】(p=0.0431)、の各項目において実習前後の自己評価値に有意差が認められた(表3)。

表3. 「社会人基礎力 (チームワーク)」実習前後の自己評価平均値

能力要素	行動指標 (具体的な行動例)	実習前	実習後	前後差 有意差
発信力	指導者や教員に自分の考えやその日の行う予定の計画を伝えることができる	3.26	3.39	0.13
	カンファレンスで発言することができる	3.53	3.52	-0.01
	事例や客観的なデータなどを用いて、具体的に分かりやすく伝えることができる	2.74	2.76	0.02
	聞き手がどのような情報を求めているのかを理解して伝えることができる	2.56	2.79	0.23
	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている	2.88	3.00	0.12
	能力要素の平均値	2.99	3.09	n. s.
傾聴力	指導者や教員からの意見や助言(アドバイス)を最後までしっかりと聞くことができる	3.65	3.76	0.11
	カンファレンスでグループメンバーの意見や助言(アドバイス)を最後までしっかりと聞くことができる	3.71	3.76	0.05
	内容の確認や質問などを行いながら、相手の意見を正確に理解することができる	3.26	3.52	0.26
	あいづちや共感などにより、相手に話しかけやすい状況をつくることができる	3.58	3.67	0.09
	相手の話を率直に聞くことができる	3.56	3.73	0.17
	能力要素の平均値	3.55	3.69	*
柔軟性	相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる	3.32	3.42	0.10
	指導者や教員からの意見や助言(アドバイス)を受け止め、納得したうえで自分の考えた内容を変更していくことができる	3.24	3.42	0.18
	グループメンバーの意見や助言(アドバイス)を受け止め、納得したうえで自分の考えた内容を変更していくことができる	3.35	3.39	0.04
	患者の状態や病棟の状態によって、指導者を行う介入のタイミングを納得して変更することができる	3.35	3.48	0.13
	能力要素の平均値	3.31	3.43	n. s.
状況把握力	他者の発言をささげず発言することがない(傾聴とも重なる)	3.50	3.39	-0.11
	自分でできること、他人ができることを的確に判断して行動することができる	2.91	2.97	0.08
	周囲の人の状況(人間関係、忙しさなど)に配慮して、良い方向へ向かうように行動することができる	3.06	3.21	0.15
	指導者の動きを察知しながら指導を受けて実習を行っていくことができる	3.09	3.21	0.12
	病棟内やベッド再度、カンファレンス場面で、自分の置かれた状況や期待される役割(発表者、助言者、ケア直接的援助者、ケアの介入者、どこまで口を出してよいか)を理解して行動に結びつけることができる	2.82	3.06	0.24
	能力要素の平均値	3.08	3.17	n. s.
規律性	病棟スタッフにあいさつができる(朝、夕、昼食の入りと戻り時間)	3.88	4.00	0.12
	患者にあいさつができる	3.97	4.00	0.03
	実習に遅刻しない	3.91	3.88	-0.03
	患者とケアの予定を相談し、予定に従って行動できる	3.56	3.73	0.17
	実習学生としてのマナー(身だしなみ、言葉遣い)を守ることができる	3.68	3.79	0.11
	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している	3.68	3.73	0.05
	相手に迷惑をかけたとき、適切な行動をとることができる	3.50	3.66	0.16
	規律や礼儀が特に求める場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる	3.50	3.69	0.19
	能力要素の平均値	3.71	3.81	*
ストレスコントロール力	ストレス状態に置かれたときに適切にストレスを発散できる(実習場面だけでなく帰宅後も含める)	3.09	3.33	0.24
	強いストレス状況をつくらないような人間関係の維持や、実習記録をためてストレス状況をつくらないようにすることができる	2.94	3.30	0.36
	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる	3.00	3.30	0.30
	他人に相談したり、別のことに取り組んだりするなどにより、ストレスを一時的に緩和できる	3.21	3.45	0.24
	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている	3.15	3.52	0.37
	能力要素の平均値	3.08	3.38	*

*はp<0.05, n.s.は有意差なし

2. 「社会人基礎力」に基づいた看護統合実習の学び（チームワーク項目のみ）

本実習後の自己課題として提出された個人レポートの記述内容について、学生の素データを「チームワーク」を構成する6項目の視点から分析し、各能力要素毎に「学び」と「自己課題」に分類した。なお、「チームワーク」を構成する6項目の視点に該当しない学生の「学び」「自己課題」を【その他】とし分類した(表4)。【 】はチームワークを構成する能力要素(その他を含む)、〔 〕は学生の素データとする。

【発信力】では、〔チームでの報告・連絡・相談が本当に大切だと学んだ〕や〔ささいなことでも声に出して情報を発信し主体的に行動することの大切さを学んだ〕などの学びの記述があった。また、〔自分の意見を分かりやすく伝えることは難しいと感じた〕〔自分は、伝える力が弱いことが、あらためて課題だとわかった〕と自己課題の記述があった。

【傾聴力】では、〔今までメンバーの意見を聴くことがあまりなかった〕や〔他者の意見を聴くことを心掛けると発見につながった〕との学びの記述があった。また、〔メンバーが話したいことを聴くということは、とても大変だと感じた。これからも課題だと思う〕と自己課題の記述があった。

【柔軟性】では、〔すぐ話し合っって看護を考え実施したことの達成感があった〕や〔みんなで考えるのは看護の魅力のひとつ〕などの学びの記述があった。また、〔メンバーでの情報共有が難しかった〕〔患者の全体像を皆で考えるのが大変だった〕などの自己課題の記述があった。

【状況把握力】では、〔リーダーを経験してみても広い視野で全体を見ることの重要性がわかった〕や〔チームで考えた行動計画だったので、複数の患者の判断に困ったときすぐに相談して解決することができた〕との学びの記述があった。また、〔複数患者の受け持ちは、常に判断の連続でパニックになった〕と自己課題の記述があった。

【規律性】では、〔看護師はチームで動くことが実感できた〕や〔実習ではいつも、態度や時間管理が出来ていたので、規律を守るとは難しくなかった〕などの学びの記述があった。また、〔自分は援助技術の行動が遅いので、メンバーに迷惑かけてしまった〕と自己課題の記述があった。

【ストレスコントロール力】では、〔今までの実習とは違い、みんなで助け合えた〕や〔途中で辛くなったとき、メンバーに聞いてもらい気持ち楽になった〕との学びの記述があった。また、〔メンバーの中で雰囲気が悪いことがあって、ストレスになった。気を付けたい〕〔ストレスをため込んでしまうのが良くないわかった。今後の課題〕などの自己課題の記述があった。

【その他】では、〔チームの協力で行動が取れやすく学びが多かった〕〔自分も看護チームの一員として働くというイメージがついた〕との学びの記述や、〔働いた際、メンバーとしての役割ができるようになりたい〕との自己課題の記述があった。

VIII. 考察

1. 「社会人基礎力」の能力要素「チームワーク」と学生の学び・自己課題

【発信力】とは、「自分の意見を分かりやすく伝える力」と定義され⁵⁾、看護教育では「指導者や教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる力」³⁾と解釈されている。この力は、聞き手の意向をくみ取りながら、自分の意思をわかりやすく伝えることが重要である。これまでの看護学実習で、学生は指導者や教員からの指導は受けているが、伝え方やその内容について自己評価をする経験や、意図的に自分の伝え方を振り返る機会は多くはなかった。そのため、学生は自分の考えを表出することに苦手意識を持っていて

表 4. 「社会人基礎力」をふまえた看護統合実習からの学び（チームワーク項目のみ）

能力要素	学び/課題	学生の素データ
発信力	学び	チームでの報告・連絡・相談が本当に大切だと学んだ ささいなことでも声に出して情報を発信し主体的に行動することの大切さを学んだ 今までよりもカンファレンスで意見を言うことを意識できた リーダーだった時、メンバーにうまく伝わるように意識したことで、申し送りに活かせた
	自己課題	自分の意見を分かりやすく伝えることは難しいと感じた 自分は、伝える力が弱いことが、あらためて課題だとわかった
傾聴力	学び	今までメンバーの意見を聴くことがあまりなかった 他者の意見を聴くことを心掛けると発見につながった
	自己課題	メンバーが話したいことを聴くということは、とても大変だと感じた。これからも課題だと思う
柔軟性	学び	すごく話し合って看護を考え実施したことの達成感があった 看護はチームだからこそ、その人に合ったより良いケアの提供ができるのだと思った みんなで考えるのは看護の魅力のひとつ 意見交換の内容がどんどん看護に近づき、チームでの実習は楽しかった
	自己課題	メンバーでの情報共有が難しかった 患者の全体像を皆で考えるのが大変だった チーム看護の大切さは学んだが患者を深く理解できなかった 話し合う時間が長すぎて看護を深められず達成感がなかった 考えが違って情報共有が難しかった 情報共有は自分はあまり得意ではない 十分に患者のことを捉え、メンバー同士で共有することは難しい メンバーの強い意見を変えるのが大変
把握力 状況	学び	リーダーを経験してみて広い視野で全体を見ることの重要性がわかった チームで考えた行動計画だったので、複数の患者の判断に困ったときすぐに相談して解決することができた
	自己課題	複数患者の受け持ちは、常に判断の連続でパニックになった メンバーに頼ってばかりだったので頼られるようになりたい
規律性	学び	実習ではいつも、態度や時間管理が出来ていたため、規律を守ることは難しくなかった 看護師はチームで動くことが実感できた メンバーと時間を合わせるが大変だったが大事なことだと実感した 患者と予定を相談していないとチームの動きに影響することがわかった 予定に従って行動するのもチームワークに影響するとわかった メンバーの中で、ちゃんとしていない人がいると、チームに影響することがわかった
	自己課題	自分は援助技術の行動が遅いので、メンバーに迷惑かけてしまった
コン スト レス ロー ル	学び	今までの実習とは違い、みんなで助け合えた 途中で辛くなったとき、メンバーに聞いてもらい気持ちが楽になった
	自己課題	メンバーの中で雰囲気が悪いことがあって、ストレスになった。気を付けたい 自分のやる気のなさがみんなに悪い影響を与えてしまった ストレスをため込んでしまうのが良くないとわかった。今後の課題 チームワークに自分のストレスも関わることがわかった。態度に出してしまい反省した
その他	学び	チームの協力で行動が取れやすく学びが多かった 実習を進めるごとにチーム力が上がっていった。 チームワークが良ければ良いほど目標達成に向かって一致団結できる チームメンバーがいないと目標は達成できない 目標があってチームで動くというイメージができた 自分も看護チームの一員として働くというイメージがついた
	自己課題	働いた際、メンバーとしての役割ができるようになりたい

も、行動化への意識は強くはなかったと考えられる。吉武らは¹¹⁾、新人看護師を対象にした「社会人基礎力」修得状況の調査で、「チームで働く力」は低い傾向にあり、中でも特に【発信力】が低かつ

たとの結果を報告し、また、自分の意思を分かりやすく伝える力が弱い傾向が示唆された、と述べている。これは、本研究の、【発信力】の能力要素別自己評価（以下、自己評価と示す）の平均

値が、実習前後ともに最も低い結果であったことと一致する。また、実習後の自己評価の平均値が有意に向上しなかった結果から、学生は、行動化が困難な能力であると認識していることが考えられる。しかし、実習後のレポート記述から、学生は「ささいなことでも声に出して情報を発信し主体的に行動することの大切さを学んだ」「チームでの報告・連絡・相談が本当に大切だと学んだ」など、チーム間で話し合う上で、相手のことを考えながら発言することの重要性を学び、また、「自分の意見を分かりやすく伝えることは難しいと感じた」「自分は、伝える力が弱いことが、あらためて課題だとわかった」などの自己課題にも気づくことができていた。【発信力】については、新人看護師に求められる必要な基本姿勢と態度についての到達目標⁴⁾の「同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる」、との目標達成には欠かせない能力であることから、学生の行動化が可能となるような育成の検討が必要である。

【傾聴力】とは、「相手の意見を丁寧に聴く力」と定義され⁵⁾、看護教育では「相手の発言を促す質問をしたり、目線を合わせて相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気をつくり、相手の意見や考えを最大限引き出しながら丁寧に聴くことができる力」³⁾と解釈されている。チームで働くときの基本は「コミュニケーション」であり、その中でも「人の話を聞く」ということは重要である。学生は、看護学実習で患者の話を良く聴くことは経験しており、その重要性も理解できていたと考えられる。しかし、実習後のレポート記述から、学生は「今までメンバーの意見を聴くことがあまりなかった」「他者の意見を聴くことを心掛けると発見につながった」などと、本実習でチームワークやメンバーとのコミュニケーションを意識したことで、気づきや学びを実感できていた。中村らは¹²⁾、看護学生のコミュニケーションスキルを調査し、「傾聴」「共感」「判断」「表出」の4要因のうち「傾聴」が最も高いとの結果が得られ、「学生は相手を理解しようとして話をよく聴くことに関しては、コミュニケーシ

ンスキルの中では比較的達成している」と述べている。これは、実習前後で【傾聴力】の自己評価の平均値が2番目に高かった結果や、実習後の自己評価の平均値が有意に向上していた結果と一致する。しかし、「メンバーが話したいことを聴くということは、とても大変だと感じた。これからも課題だと思う」との記述から、患者だけでなく学生間での意図的な【傾聴力】育成の検討が必要である。

【柔軟性】とは、「意見の違いや立場の違いを理解する力」と定義され⁵⁾、看護教育では「自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に、最善の結果が出るように努力することができる力」³⁾と解釈されている。この力は、他者の考えに共感することや、他者の考えから素直に学ぶ力が重要である。これまで学生は、指導者や教員からの指導に対し、自分が納得したうえで、実習記録等の内容を変更していくことを経験していた。しかし、本実習で学生は、受け持ち患者の看護を考えるうえで、チーム間で考えを一致させることが求められていたことから、毎日、メンバーや指導者、教員など多くの意見や考えから自分とは異なる考えを受け入れ学ぶといった経験を重ねていた。その中で「メンバーでの情報共有が難しかった」「考えが違って情報共有が難しかった」と、情報共有や他者の考えを受け入れることの困難さを課題として記述していた。実習後の自己評価の平均値が有意に向上しなかった結果からも、学生は、行動化が困難であると認識していたと考えられる。チームで看護を実践することや多様な価値観を持つ患者や家族などと関係性を築くために、他者の考えや意見を受け入れて自己の考えを変更していくことは必要な力である。新人看護師が仕事上で求められるコミュニケーション能力として、相手の態度や表情から察する力が挙げられていることから¹³⁾、【柔軟性】育成への検討が必要である。

【状況把握力】とは、「自分と周囲の人々や

物事との関係性を理解する力」と定義され⁵⁾、看護教育では「多方面の状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる力」³⁾と解釈されている。この力は、【柔軟性】と合わせてチームで働くうえで人間関係をつくる力として重要な力である。実習後のレポート記述から、学生は「リーダーを経験してみて広い視野で全体を見ることの重要性がわかった」〔チームで考えた行動計画だったので、複数の患者の判断に困ったときすぐに相談して解決することができた〕と、広く全体を見る視点や、困った場面で「他者に相談する」といった基本的で重要な学びを得ていた。しかし、「複数患者の受け持ちは、常に判断の連続でパニックになった」と、初めての経験での戸惑いだけでなく、常に状況判断を求められていた実習への困難さが記述されていた。【状況把握力】について、箕浦は¹⁴⁾「学生は、自己中心的に自己に関心が向いており周囲に興味・関心を持ちにくいのが、看護基礎教育では、対象となる患者や家族の健康問題を知るために基礎的に求められる能力である」と述べている。学生は入学以来、他の看護学実習で状況把握の場面は経験しているが、本実習後の自己評価の平均値が有意に向上しなかった結果から、行動化が困難であると認識していたと考えられる。本実習だけでなく他の実習でも求められる能力であり、【柔軟性】とともに、早期からの【状況把握力】育成の検討が必要である。

【規律性】とは、「社会のルールや人との約束を守る力」と定義され³⁾、看護教育の場では、「社会人としてさまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自からの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動を取ることができる力」³⁾と解釈されている。この力は、看護師としてだけでなく、社会人として良い人間関係を築くための基本である。学生は、実習において看護実習生としての自覚を持った行動はできていたが、チームの一員としての自覚を持ち、

チーム活動を円滑に行うための行動は初めての体験であった。しかし、実習後のレポート記述から、学生は、チームの一員としての自己を意識することで、「看護師はチームで動くことが実感できた」と、これまでの実習では得ることができなかったチーム看護を実感していた。また、「予定に従って行動するのもチームワークに影響するとわかった」と、自分の行動がチームに影響することを学んでいた。梅川らは¹⁵⁾、看護学生の臨地実習が「社会人基礎力」の【規律性】に与える影響として、「学生が普段の生活の中で無意識のうちに表れる言葉づかいや態度を注意される機会は極めて少ない。しかし実習中の患者や指導者とのかかわりにおいて、学生の普段の言葉づかいや態度を、タイムリーに指導者から注意されることで、はじめて気が付くことができる」と述べている。実習前の自己評価の平均値において、【規律性】が最も高かった結果から、学生は、これまでの看護学実習を通して常に看護学生としての態度や行動を意識し行動可能と認識していたと考えられる。この力は、新人看護師に求められる必要な基本姿勢と態度についての到達目標⁴⁾の、「職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する」、との目標達成に欠かせない社会人の基本的な能力である。実習後の自己評価の平均値が有意に向上したこと、他の自己評価の平均値に比べ最も高い値であったことから、学生は本実習を通して、【規律性】の行動化がさらに可能であると認識することができ、本実習のチーム活動での学びが社会で働く準備につながったと考えられる。

【ストレスコントロール力】とは、「ストレスの発生源に対応する力」と定義され⁵⁾、看護教育では「ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自らの突き止めで取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる力」や「ストレスを成長の機会と前向きに捉える力」³⁾と解釈されている。この力は、ストレスを自覚し、セルフマネジメントする事が重要である。学生の多く

は、失敗した時に落ち込んだり、葛藤するなど、様々なストレスを経験していたが、自己の抱えているストレスがチームに与える影響について考える機会はなかったと考えられる。しかし、実習後のレポート記述から、学生は〔チームワークに自分のストレスも関わるのがわかった〕と、個人のストレスがチームに与える影響や、〔途中で辛くなったとき、メンバーに聞いてもらい気持ちが悪くなった〕と、解消のための対処にもなることを学んでいた。また、〔メンバーの中で雰囲気が悪いことがあって、ストレスになった。気を付けたい〕〔ストレスをため込んでしまうのが良くないとわかった。今後の課題〕と、自己の課題を見出すきっかけとなっていた。近年の卒後看護師の離職理由として¹⁶⁾、「卒業時の能力と現場で求める能力とのギャップ」や「現代の若者の精神的な未熟さや弱さ」が挙げられており、その理由に、「思っていたよりも出来ない自分」「精神的につらい」といったストレスへの対処能力の弱さが指摘されている。卒業前の最終実習である本実習で、学生がメンバー間での経験からストレスへの対処方法や自己の課題を考えるきっかけとなったこと、また、行動化が可能と認識できたことは、新卒看護師の離職回避への一助となったと考える。那須¹⁷⁾が、「社会人基礎力」の獲得に有効な学習方法として経験的学習と知的学習の視点から、特に「ストレスコントロール力」はその再現性が高くなる、と述べている。実習は経験的学習であることや、実習後の自己評価の平均値が優位に向上した結果から、本実習での経験が「社会人基礎力」の【ストレスコントロール力】能力要素を獲得するために有効であったと考える。しかし、看護学実習におけるストレスは本実習に限らず、また、その要因や対処方法もさまざまであることから、早期からの【ストレスコントロール力】育成に向けた検討が必要である。

2. 「社会人基礎力」の能力要素「チームワーク」育成に向けての課題

今回、学生の自己評価や学びのレポートか

ら、看護統合実習は「社会人基礎力」の能力要素である、「チームワーク」の育成につながる学びがあったとの結果が得られ、さらに、臨床で看護チームの一員として働く自己をイメージすることにもつながっていた。しかし、「チームワーク」能力要素育成の課題も見出されたことから、今後は、その育成方法について検討することが必要である。小磯は¹⁸⁾、「社会人基礎力の育成は『基礎学力』や『専門知識』の育成と別々に行われるものはない。社会人基礎力の向上が『基礎学力』や『専門知識』修得の意欲につながり、相互に作用しながら共に成長していくものなのである」と述べている。また、高橋は⁶⁾、「自律した専門性を発揮していくべき看護職にとって、『社会人基礎力』は看護を実践するための基礎的な能力といえ、これらの能力は、『人とかかわり』の中で『様々な経験をとおして』育ち、つまりは日々の生活や仕事の中での実践をとおして身に付く力であることから、できるだけ早い時期に社会人基礎力の意味を理解し、それらを『意識しながら考え、行動する』ことが重要である」と述べている。チーム医療において専門性を発揮していくうえでのベースとなる基本的な姿勢・態度、能力や資質などの多くの力は、短期間では育成されるものではないことから、「社会人基礎力」の育成が、看護基礎教育を学ぶと同時に進んでいくことが望ましいと考える。また、チームワーク向上のためには、形成され発展していく過程が重要であること¹⁹⁾、看護基礎教育のさまざまな場面を通してさらに養われる「社会人基礎力」能力要素があること²⁰⁾をふまえ、今後は、卒業前の最終実習である看護統合実習に向けて「チームワーク」を意識づけるのではなく、「社会人基礎力」項目に沿った指標を用い、学生が「チームワーク」の自己課題を意識して、行動化できる実習や演習などの教育方法を検討することや、学生の到達度に合わせた育成方法の検討が必要と考える。

3. 本研究の限界

本研究のデータの範囲は特定集団に限られていること、また、分析の方法についても、実習前後の比較のみで終わっており、学生の主観的な自己評価での分析としていることから、一般化には至らない。看護基礎教育において、学生の「チームワーク」を育成する研究は少ないことから、本研究での学びが看護統合実習のみならず他の看護学実習において、どのような教育方法が「チームワーク」育成に効果的なのか検証を継続することが今後の課題である。

IX. 結論

1. 「社会人基礎力」の項目を用いて自己課題を意識し、看護統合実習を行った結果、「チームワーク」を構成する能力要素【傾聴力】【規律性】【ストレスコントロール力】の学生の自己評価が有意に向上した。
2. 看護統合実習で「社会人基礎力」の行動指標を用いることは、学生自身が自己課題に気づき、自らの課題を意識し、行動を起こすきっかけとなる。

本研究にあたり、協力して下さいました看護学生の皆様に感謝申し上げます。

なお、本研究は、第45回日本看護学会看護教育学術集会で発表したものに、加筆・修正を加えたものである。

文献

- 1) 厚生労働省. 基礎看護教育の充実に関する検討会報告書.
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf> (accessed 2014-11-10)
- 2) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書.
http://www.tokiwa-h.spec.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=275 (accessed 2014-11-10)
- 3) 箕浦とき子, 高橋恵編. 看護職としての社会人基礎力の育て方 専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素. 日本看護協会出版会. 2013, 5.
- 4) 厚生労働省. 新人看護研修ガイドライン. 2011.
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000049466_1.pdf (accessed 2014-11-10)
- 5) 経済産業省. 社会人基礎力育成の手引き. 朝日新聞出版. 2010.
- 6) 高橋恵. いま看護職に求められる「社会人基礎力」とは. 看護展望. 2013, 38 (7), 4-6.
- 7) 江村恭子, 田邊直美, 江口由美子, 他. 統合演習と統合看護実習の効果と課題. 看護展望. 2012, 37 (7), 13-19.
- 8) 北原恵子, 山本典子. 2011年度の統合実習を終えて—学生チームナーシングの展望と課題—. 看護展望. 2012, 37 (7), 4-11.
- 9) 北島洋子, 細田泰子, 星和美. 看護系大学生の社会人基礎力の構成要素と属性による相違の検討. 大阪府立大学看護学部紀要. 2011, 17 (1), 13-23.
- 10) 経済産業省. 社会人基礎力.
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> (accessed 2017-2-16)
- 11) 吉武美佐子, 椎葉美千代, 酒井康江, 他. A看護大学卒業性の看護技術および社会人基礎力修得の現状と課題. 福岡女学院看護大学紀要. 2014, 5, 1-8.
- 12) 中村小百合, 足立はるゑ, 天野瑞枝, 他. 看護学生のコミュニケーションスキル育成に関する研究(第1報)—コミュニケーションスキルと字が状態との関連—. 日本看護医療学会雑誌. 2007, 2, 18-26.
- 13) 滝島紀子, 森智恵子. 新卒看護師の看護実践上の困難点と仕事の現場で求められている能力の関係. 川崎市立看護短期大学紀要. 2015, 20 (1), 33-43.
- 14) 箕浦とき子. 組織で生きる社会人基礎力の育成⑤「チームで働く力(チームワー

- ク) を身につけさせる教育方法. 看護展望. 2016, 41 (7), 80-85.
- 15) 梅川奈々, 北尾良太, 新井祐恵, 他. 成人看護学実習の前後で変化した看護学生の社会人基礎力. 第45回日本看護学会論文集 看護教育. 2015, 98-101.
 - 16) 厚生労働省. 新人看護職員の現状について. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/04/dl/s0430-7b.pdf#search='%E6%96%B0%E4%BA%BA%E7%9C%8B%E8%AD%B7%E8%81%B7%E5%93%A1%E3%81%AE%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6'> (accessed 2016-11-15)
 - 17) 那須一貴. プロジェクト・マネジメントの学部教育的意義—社会人基礎力の育成に向けたプロジェクト・マネジメントの学部教育的意義—. プロジェクト・マネジメント学会誌. 2012, 14 (2), 21-26.
 - 18) 小磯重隆. 社会人基礎力と就業力の育成. 21世紀教育フォーラム. 2012, 7, 29-36.
 - 19) 鬼塚佳奈子, 高木修. 第7章確認コミュニケーションに関連する看護師のチームワーク要因. 現代社会における人間関係とリスク 関西大学経済・政治研究所. 2007, pp.125-137.
 - 20) 北島洋子, 細田泰子, 星和美. 看護系大学生の社会人基礎力と看護実践能力および日常生活経験の関係. 日本看護学教育学会誌. 2012, 22 (1), 1-11.